

1. 未来の担い手を育む教育

(1) 英語教育の更なる推進と充実を求めて

①小中学校での授業の取り組み状況や外国語指導助手（A L T）の配置増員や英語教育実施状況調査について聞く

②楽しみながら学べるための工夫や会話主体のコミュニケーション力の充実を

【答弁】

1. 未来の担い手を育む教育の（1）の①、②について、順次お答えいたします。

はじめに、①についてですが、今後のますますのグローバル化の進展を見すえ、文部科学省より平成25年に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が、平成26年に「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」が、平成27年には「生徒の英語力向上推進プラン」が示されました。

本市におきましては、すでに平成17年度に「学びのまち富田林」として国の特区指定を受け、小学校に教科としての「英語活動」を設置し、英語教育を進めてまいりました。

また、A L Tについても、他市に先駆けて配置をはじめ、さらに本年度からは、小学校3・4年生での外国語活動や5・6年生での教科化に向けた授業の先行実施のために、A L Tを昨年度に比べて4名増員し、計15名のA L Tを配置することで英語教育の充実に努めております。

授業の取り組みとしましては、平成28年度より2年間、喜志西小学校を研究校として指定し、教員の授業力向上に向けて外国語活動の研究に取り組み、昨年度は市内全校を対象とした公開授業研究会を実施しました。さらに、その研究成果を広く普及するために、担当教員が作成した指導案等をセンターサーバーに置き、各学校で共有し活用できるようにしております。

また、文部科学省の英語教育実施状況調査における、中学校３年生で英検３級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合は、本市平均で４０．１％と概ね全国平均と同等でありましたが、文部科学省が目標とする５０％には未だ到達していないことから、引き続き、目標達成に向けた取り組みを進めてまいります。

続いて、②についてですが、議員ご指摘のように、楽しみながら学ぶための授業づくりを進めるには、子どもたちが英語を使ってコミュニケーションを行い、英語で話したことが相手に伝わる喜びを実感することが重要です。こうした実体験につなげるために、授業の中では、自分の考えを英語を使ってスピーチしたり、習った英語を使って即興でやり取りを行ったり、ＡＬＴと対話する場面を多く取り入れたりするようにしております。また、授業で学んだ成果を発表する場として、本市の英語教員が中心となって英語暗唱大会を開催し、子どもたちの学習意欲向上を図っております。

これらの取り組みを進めるには、教員の指導力向上が求められますことから、引き続き、府の小学校専科加配事業を活用し、中学校英語教員を小学校に派遣することはもとより、府が主催する研修への積極的な参加を促すとともに、本市の夏季教職員研修でも、外国語教育に関する研修を実施してまいります。

加えて、本年度は、府の研修協力校の指定を金剛中学校で受けており、中学校におけるスピーキング能力の向上をめざして研究に取り組んでおります。その研究の成果を市内各校に波及するために、公開授業を年３回開催し、市内各校の教員を参加させることで、英語科教員の指導力向上を図ってまいります。

本市教育委員会といたしましては、子どもたちに未来の担い手として英語をコミュニケーションツールとして使いこなせる力の育成を図ることは重要であると認識しておりますことから、引き続き、ＡＬＴの配置や教職員の指導力向上に取り組む、英語教育の推進と充実に努めてまいります。